



〈雑録〉ペイン關税法ヲ論ジテ其改正問題ニ及ブ(2)

松井, 啓介

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 11(3):474*-485

(Issue Date)

1911-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051774>



以上ヲ以テ第一篇ノ第一章ヲ終ツタ。此第一章ハ序論デアツテ、寧ロ序文ノ内ヘ入ル可キモノデアル。切リガヨイカラ、今回ハ之デ筆ヲオキ次號ニハ第二章「十六世紀以來ノ經濟的中心ノ變遷」ト云フ章カラ初メテ眞ノ本文ヲ紹介シタイト思フ。

ペイン關稅法ヲ論ジテ

其改正問題ニ及ブ (其二)

商學士 松井啓介

(四) ペイン關稅法ノ影響

一、通商諸國ニ及ボシタル影響

ペイン關稅法ノ稅率竝ニ其他ノ規定ガ諸通商諸國ノ利害ニ一大關係ヲ有スル。論無シト雖モ其最モ影響ノ著大ナルモノヲ前節ニ於テ一言セシ如ク實ニ最高最低稅率ニ關スル規定及ビ關稅

行政ニ關スル規定ノ二ツトナス。

元來デイングレー法ノ改正ヲ促シタル重ナル

原因ノ一ハ外國市場ニ於ケル米國品ヲシテ有益ナル條件ヲ維持セシメントスルニアリ。近時諸外國トノ貿易著シク増大ヲ來セルモ同時ニ米國輸出業者ハ外國ニ於ケル特殊の待遇差別的取扱等ニ因リテ妨害ヲ受クルニ至リシヲ以テ何等カノ方法ヲ講ジテ之ガ救済ノ必要ヲ生ゼリ。ペイン氏及ビ其他ノ豫算委員ハ關稅改正ニ着手スル數箇月前其必要ヲ認メ先例無キ最高最低稅率ヲ設クベキ旨ヲ揚言シ關稅草案中ニ此ノ如キ制度ヲ規定シ以テ外國トノ通商上ノ基礎ヲ確立センコトヲ期セリ。即チ案出討議シタル最高最低稅率制ニハ次ノ如ク三種ノ提案アリテ豫算委員中ニモ議論ヲ惹起セリ。

(第一案) 新法ニ最高稅率ヲ規定シ其率ヨリ特別步合(一割若クハ二割)ヲ輕減シタルモノヲ最低稅率トナシ米國ニ對シ關稅ニツキ最良ノ取扱

ヲナス國ニ適用スルコト。

(第二案) 政府ハ米國ニ對スル通商諸國ノ利益條件ニ從ヒ一定稅率ヨリ或ハ高クシ或ハ低クスルノ權能ヲ與フルコト。

(第三案) 最低稅率ヲ一般稅率ト定メ米國ニ對シテ不利益ナル取扱ヲナス通商國ニ對シ一定ノ附加稅率(二割若クハ二割五分)ヲ加算スルコト

此等ノ提出案中第三案ノ不可ナル事實ハペイン氏等ノ明ニ認メタルモ右三案ノ提出サル、ヤ保護ヲ享クル生産者ノ強請ニ因リテ第三案ハ採用セラレタリ。其理由トスル所ヲ見ルニ該生産者ハ恩惠國ノ爲ニ最高稅率以下ノ稅率ヲ課スルハ產業界ヲ不確定ナラシムルモノナリト論ジ之ニ反シテ不利益ナル國ノ爲ニ最低稅率以上ノ稅率ヲ課スルハ產業界ヲ安固ナラシムルノ效果有ルベキヲ主張セシヲ以テナリ。豫算委員モ亦第一案ヲ法案中ニ規定スルコトヲ避ケタリ。即チペイン氏ノ報告セル最高最低稅率制ハ一般稅率

(最低稅率)ニ二割若クハ二割五分ヲ加ヘタル最高稅率ヲ適用スルニアリ。遂ニ下院ハ之ヲ通過セリ。然ルニ上院ノ財政委員會ニ於テハ右ペイン案ヲ削除シタルモ之ニ準ズベキモノ無キ爲アルドリツチ氏ハペイン案ト類似ノ案ヲ財政委員會ニ提出シ遂ニ之ヲ通過セリ。ペイン關稅法ノ第二章ノ最高最低稅率ノ規定即チ之レナリ。

アルドリツチ案トペイン案トハ文字等ノ幾分相違アルモ根本觀念ニ於テ大差無ク米國ニ對シ最良ナル待遇ヲナサル國ニ對シ最高稅率ヲ以テ報復スルニアリ。即チ最高稅率ハ最低稅率ニ比シテ非常ナル増加ニシテ爲ニ最高稅率ノ適用ヲ見シニハ從來比較的低率ナリシ稅目ノ如キモ幾十割ノ増加トナルベキナリ。故ニ諸通商諸國ニ取リテ本問題ハ極メテ重要ナルコトニ屬ス。次ニ注目スベキハ關稅行政ニ關スル規定之レナリ。一九〇六年米國ハ獨逸國ト關稅ノ協定ヲナシ獨逸品ヲシテデイングレー關稅法ノ第三章

ノ低減率ノ利益ニ浴セシムルト共ニ關稅行政上重要ナル改正ヲ行ヒタリ。其改正中最モ重要ナルハ次ノ二ツナリ。

(第一)内國市價(home market value)無キ場合ニハ輸出價格(export value)ヲ以テ輸入稅賦課ノ標準トナスコト。

(第二)從來ノ如ク米國ニ輸入スル貨物ハ其生産地ニ於ケル駐在米國領事ノ證明書ヲ要セザルニ至リシコト。

其後米國ハ佛國瑞國英國ブルガリヤ伊國和國等ト協定ヲナシ獨逸ト同様ノ取扱ヲナスニ至リシガペイン關稅法ニ於テハ此等ノ關稅行政ニ關スル二大恩典ヲ全然廢止セリ。ペイン關稅法第四章ニ大略左ノ如キ規定ヲ設ケタリ。

終了セシムベキ通告ヲ發シテヨリ滿了スルニ至ル迄ハ諸外國トノ通商條約ハ其效力ヲ有スルモノナリ。デイングレー關稅法第三章ノ規定ニヨリ締結セル通商條約ノ規定中終了期限ニ就キ何等ノ定メ無キ場合ニ於テハ大統領ハ關係諸國ニ一九〇九年四月三十日ヨリ六箇月ヲ以テ該條約ハ終了スベキ旨ノ

通告ヲ發スル權限ヲ有ス。

ペイン關稅法ハ一九〇九年八月五日ニ通過シタルモノナルガ之ヨリ曩キ四月三十日諸通商諸國ニ對シテ豫定通告ヲ發シ之ヲ以テ條約廢棄ノ宣言ト見做シ終了期限ニ就キ約定無キ諸國トノ條約ハ六箇月ヲ經テ即チ十月三十日之ヲ終了セシメ後一九〇九年八月七日國務省ハ公式ニ其廢棄ヲ通告シ終了期限ニ就キ協定ヲ有スル諸國トノ條約ヲ終了セリ。更ニ其詳細ハ八月十日大藏省ヨリ紐育關稅長ニ宛タル達シニ明記セリ。今此等關係諸國トノ互惠條約ノ確定終了期限ヲ記スレバ次ノ如シ。

(イ)一八九八年五月二十八日締結米佛條約一九〇二年八月二十日ノ追加通商條約及一九〇八年一月二十八日追加通商條約ハ一九〇九年四月三十日ヨリ六箇月ヲ經テ即チ一九〇九年十月三十一日終了スベキ旨ヲ佛國政府ニ通告セリ。

(ロ)一九〇六年一月一日大統領ノ發シタル宣言ハ一九〇九年四月三十一日ヨリ六箇月ヲ經テ即チ一九〇九年十月三十一日終了スベキ旨ヲ瑞西政府ニ通告セリ。

(ハ)一九〇七年四月二十二日ワシントン政府ニテ調印セル

米獨通商條約及一九〇七年五月二日莫國レヴィコニテ調印セル米獨通商條約ハ一九〇九年八月七日ヨリ六箇月ヲ經テ即チ一九一〇年二月七日ニ終了スベキ旨ヲ獨逸政府ニ通告セリ。

(ニ)一九〇七年十一月十九日締結英米通商條約ハ一九〇九年八月七日ヨリ六箇月ヲ經テ即チ一九一〇年二月七日ニ終了スベキ旨ヲ英國政府ニ通告セリ。

(ホ)一八九九年五月二十二日締結米葡通商條約及一九〇二年十一月十九日締結追加條約ハ一九〇九年八月七日ヨリ一箇年ヲ經テ即チ一九一〇年八月七日ニ終了スベキ旨ヲ葡國政府ニ通告セリ。

(ヘ)一九〇〇年二月四日締結米伊通商條約及ビ一九〇九年三月二日締結追加條約ハ一九〇九年八月七日ヨリ一箇年ヲ經テ即チ一九一〇年八月七日ニ終了スベキ旨ヲ伊國政府ニ通告セリ。

(ト)一九〇六年八月一日締結米西通商條約及一九〇九年二月二十日締結追加條約ハ一九〇九年八月七日ヨリ一箇年ヲ經テ即チ一九〇九年八月七日ニ終了スベキ旨ヲ西國政府ニ通告セリ。

(チ)一九〇七年五月十六日締結米和通商條約ハ一九〇九年八月七日ヨリ一箇年ヲ經テ即チ一九一〇年八月七日ニ終了ス

ベキ旨ヲ和國政府ニ通告セリ。

由是觀之通商諸國ヲ三種ニ分チ關稅上ノ恩典ニ浴スル時期ニ長短アルコトヲ明白ニセリ。

(一)第一種ノ國ハ佛國ブルガリヤ及瑞國三箇國ニシテ互惠條約ノ期限ハ一九〇九年十月三十一日ヲ以テ終了ス。

(二)第二種ノ國ハ獨逸英國ノ二箇國ニシテ互惠條約ハ一九一〇年二月七日ヲ以テ終了ス。

(三)第三種ノ國ハ葡國伊國西國及和國ノ四箇國ニシテ互惠條約ハ一九一〇年八月七日ヲ以テ終了ス。

此等各國トノ互惠條約終了ノ期限ニツキ恩惠ニ浴スル程度ノ相違ニヨリテ經濟上ノ影響ハ決シテ少ナリト云フベカラズ。例ヘバ火酒ノ輸入稅ハデイングレー關稅法第三章ノ互惠稅率ニヨレバ「ガロン」ニ付壹弗七拾五仙ナリ。新法ニヨレバ最低稅貳弗六拾仙トナリタルヲ以テ一九〇九年十月三十一日以降ハ佛國ヨリノ輸入火酒

ハ貳弗六拾仙ヲ課セラル、モ獨逸ヨリノ輸入ニ對シテハ一九一〇年二月七日迄葡國ヨリノ輸入ニ對シテハ一九一〇年八月七日迄夫々壹弗七拾五仙ヲ課セラル、ガ如シ。

八月十日付國務省令ノ發布ニヨリ條約ノ存續中ハ上述ノ二大恩典ハ之ヲ維持セントスルニアリシモ之ニ對シ製造業者ハ激烈ナル反對ヲナシタル結果大藏省ハ一九〇九年十月二十五日省令ヲ發シ十月二十五日以降獨逸及和國ヲ除キ其他ノ諸國ニ對シテハ此等ノ恩典ニ關スル條約ヲ廢棄セリ。之レ以上ノ二箇國トノ條約ニテ其終了前ハ其恩典ヲ廢棄スルコトヲ得ザル旨ヲ規定スルヲ以テナリ。其故獨逸及和國ニ對シテハ其條約ノ存續中ハ課稅標準ハ從來ノ方法ニヨルコトトナレリ。之レ通商國ノ利害ニ關係スルコト少カラズ。

大統領ハ諸通商國トノ協約ヲ改訂セント欲シ關稅法通過後間モ無ク第二章ノ末項ノ定ムル所

ノ權限ニヨリエール大學教授エメリー (H. C. Emery) 氏大藏次官レイノルツ (J. B. Reynolds) 氏及サンダース (A. H. Sanders) 氏ノ三名ヲ舉ゲ一九〇九年九月末大藏省内ニ關稅調查局 (Tariff Board) ヲ組織シ先ヅ諸外國トノ關係ニツキ調査セシメタリ。調查局ガ調査ヲ開始スルヤ國務省ニ於テモ亦特ニノツクス氏ノ首唱ニヨリ米國ノ商業上ノ利益ヲ増進スル目的ヲ以テ貳拾萬圓ノ支出金ヲ國會ヨリ得テ特ニ關稅調查機關ヲ設ケテ調査ヲ始メタリ。此等ノ調查機關ガ其調査ノ步武ヲ進ムルニ從ヒ諸國ハ米國ニ對シ惡感ヲ抱クニ至リタル直接原因ト認ムベキハ蓋シ左ノ二ツニアリ。

(一) 諸外國ハ米國ガ其經濟力大ナルニ乘ジ互惠的態度ニ出ルコトナク其絶大ナル勢力ヲ濫用スルガ故ニ甚ダ不快ニ感ズルナリ。此ノ惡感ハペイン關稅法ノ發布ト共ニ益々其度ヲ高メタリ

上述セル如ク同法ハテイングレー關稅法第三章ノ與ヘタル互惠稅率ト前ローズベルト大統領時代ニナシタル穩和ナル關稅行政ヲ廢止シタルノミナラズ。一般ニ關稅率ヲ増加シ而モ米國ハ良好ナル待遇ヲ許與セザル國ニ對シ報復稅ヲ以テ關稅上ノ威嚇ヲナシタルヲ以テナリ。

(二)上述セル如ク米國ハ通商條約終了期限ヲ三種ニ區別シテ國ニヨリ其待遇ニ差別ヲ設ケタルコト之レナリ。

此等ノ惡感情ノ原因ノ外ニ地方的利害(註)ノ存スルアリ。益々通商諸國トノ關稅上ノ折衝ヲ困難ナラシメタリ。

(註)新法第一章第四百六目ニハ木材バルブノ關稅ヲ規定シ若シ米國ニ輸出スル同品ニ對シテ輸出稅若シクハ之ト同種ノ稅ヲ課セザル國ヨリノ輸入ナレバ無稅ナルモ然ラザル場合ニハ一封度ニ付十二分ノ一仙ノ關稅ヲ課スルコト、シ又木材バルブト同様ノ者ニ對シテモ之レニ相當スル關稅ヲ課スベキコトヲ親定セリ。然ルニ同關稅實施後幾何モ無ク木材バルブ印刷紙製造業者ハ木材バルブ印刷紙ノ稅率低減ニヨリテ打撃ヲ

蒙リタルヲ以テ其復仇策ニ狂奔シ代表者ヲ出シテ大藏省ニ運動ヲ開始セリ。彼等ハクエベック州オンタリオ州ニ於テ輸出バルブ製造ノ爲ニ皇領地ノ木材ニ課稅制度アルヲ論ジ四百六目ノ關稅ヨリ高キ者ヲ課セラレンコトヲ要請セリ。大統領ハ最高最低稅率ノ規定ニヨリ如何ナル場合ニ於テモ米國ニ對シテ區別的取扱ヲナス地方ノ生産物ニ對シテ最高稅率ヲ適用スルコトヲ得ルヲ以テ彼等當業者ハオンタリオ、クエベック兩州ヨリ來ル總テノ生産物ニ對シテ最高稅率ヲ課セラレンコトヲ要求シ、更ニ進ンテ加奈陀品全體ニ最高稅ヲ適用スルノ至當ナルベキ旨ヲ述ベタリ。此ノ如キ陳述ハ勿論大藏省ノ容ルル所トナラザリシモ大藏省ハ紙業關係者ノ強請ニヨリバルブ及紙ニ報復關稅ヲ適用スルノ已ム無キヲ感ジ遂ニミシガン州デトロイト市ノ關稅徵收官ノ達シニヨリ十月十六日ヨリ最高稅率ヲ課スル事トセリ。即チ一封度十二分ノ一仙ノ普通稅率ニ加フルニ「ゴード」ニ付二十五仙ヲ以テセリ。クエベック州ノ皇領地ノバルブヨリ製造セル印刷紙ニハ一噸ニ付三十五仙ノ對等關稅ヲ課セリ。米國內地當業者ハ此ノ如キ一部ノ勝利ヲ以テ満足セズ尙一層高キ關稅率ヲ希望シ木材バルブ及ビ印刷紙ノ稅率ノ改正ヲ要求セシモ勿論拒絕セラレタリ。米國加奈陀間ニ既ニ存在セル惡感情ハ之レガ爲メ更ニ其度ヲ高メタリ。

一九〇九年ノ秋冬兩期間該調查局ハ通商諸國ノ關稅制度ヲ調査スルヤ通商國ノ多クニ對シテハ最高稅率ヲ課スル理由無キヲ知り得タルノミナラズ大統領タフト氏モ亦最高稅率ヲ適用スルガ如キ政策上不利益ナルヲ知ルニ至リ一九〇九年十二月議會ニ與ヘタル敎書ヲ以テ關稅戰爭ヲ見ルニ至ラズシテ終ルベキヲ保證スベシト言ヘリ。

一九一〇年一月十八日英國(殖民地ヲ除ク)伊國、露國瑞國土耳其(埃及ヲ除ク)西國(殖民地ヲ合セ)ニ對シ大統領ハ最低稅率ヲ許可セリ。

更ニ一九一〇年一月二十八日丁抹、和蘭、瑞典諾威、白耳義、埃及及波斯ニ對シテモ最低稅率ノ適用ヲ許可セリ。此クノ如クシテ事實上獨逸及佛國ハ米國ノ關稅關係上ヨリ除外セラレタリ。故ニ獨逸佛國竝ニ加奈陀ノ三國トハ早クヨリ時局ノ困難ナルモノアリ。所謂關稅戰爭問題ヲ惹

起セリ。(註)今一步ヲ進メテ此點ニ論及セントス。

(註)同年二月ニ入りテ獨逸、希臘、葡國、インヂアナ、日本、アデン、アビシニア、モロッコ、リベリア、阿弗利加、亞細亞ニ於ケル葡國殖民地、メキシコ、パナマ、グアテマラ英領ギアナ、エクアドル、ペルー智利、ボリヴェア、アルゼンチン、ウルゲエー、パラゲエー及ブラジルノ諸國ニ最低稅率ヲ許可セリ。其後三月中旬ニ至リ、清國、アフガニスタン、子ボル、ブータン、シヨホール、關東州威海衛、海峽殖民地マラヤ、ボルネオ、サラワック、香港及九龍ノ各地ニ對シ最低稅率ヲ課スベキ旨ヲ布告シ其後三月下旬難局タリシ佛國、加奈陀ノ兩國ニ對シテモ之ヲ許可シ最後ニ大統領ハ三月三十日布告ヲ發シテ漳州ニウセーランド、ニウファンランド及英領南亞ニ對シテモ同様許可セリ。

今米國ノ對外貿易上至大ノ關係ヲ有スル諸國ノ地位ヲ明ニシ這回米國關稅改正ノ事業ニ着目スルニ當リ其稅率ノ作成竝ニ最高最低稅率適用上ニ重要視シタル諸國ニツキ次ノ如キ表ヲ掲テ一言ヲ試ミントス。

一九〇九年度ノ米國輸出入統計表

	輸 出		輸 入		輸 入		輸 出	
	總輸出入額 (有. 無稅品)	割 合	總輸出入額 (有. 無稅品)	有稅品 ノ割合	總輸出入額ニ 對スル割合	內 國 品	外 國 品	合 計
英 國	723,240,123	24.31	208,612,758	64.49	15.80	509,676,577	4,950,788	514,627,365
獨 逸	378,849,968	12.73	143,525,828	69.28	10.94	232,797,756	2,526,384	235,324,140
佛 國	217,151,589	7.30	108,957,337	81.60	8.26	107,464,412	1,299,850	108,764,262
和 國	121,098,702	4.07	26,086,336	78.79	1.99	94,309,281	703,085	95,012,366
伊 國	107,799,489	3.63	49,259,894	52.42	3.76	58,078,454	431,141	58,509,595
加 奈 陀	224,765,711	8.16	79,317,755	58.00	6.04	153,608,991	9,839,665	163,448,656
日 本	97,084,335	3.26	70,392,722	18.30	5.37	26,460,573	231,040	26,691,613
合 計	2,974,931,328	100.00	1,311,920,224	54.30	100.00	1,638,355,593	24,635,511	1,663,011,104
歐 羅 巴	1,501,078,339	60.55	654,322,918	86.77	49.88	1,135,586,011	11,169,310	1,146,755,321
北 米	563,476,614	18.94	253,999,920	13.80	19.36	297,042,537	2,434,157	309,476,694
南 米	240,440,404	8.08	163,878,724	16.21	12.49	75,994,459	567,221	76,561,680
亞 細 亞	267,340,214	9.05	197,548,627	34.81	15.06	71,474,203	317,984	71,792,187
濠 洲	68,451,796	2.30	27,062,088	40.55	2.06	41,241,587	118,201	4,339,788
阿 弗 利 加	32,144,061	1.08	15,108,627	11.74	1.15	17,016,796	18,638	17,035,424
								1.02

右表ニヨリテ明ナルガ如ク米國ノ對外貿易上至大ノ關係ヲ有スルハ歐羅巴諸國ニシテ米國總輸出入額(二、九七四、九三一、三二八弗)ノ內歐羅巴諸國トノ輸出入額ハ一、八〇一、〇七八、二三九弗ニシテ殆ンド過半(即チ六割六厘六毛)ヲ占ムルナリ。次ニ米國ノ總輸入額ヲ見ルニ一、三一、九二〇、二二四弗ニシテ內歐羅巴諸國ヨリノ輸入額ハ六五四、三二二、九一八弗即チ略半(四割九分八厘八毛)ヲ占ム就中英獨逸佛國ノ三國ヨリノ輸入ハ最多額ニシテ三割五分一厘ナリ。米國ノ輸出ニツキテ觀察スルモ同様ニシテ歐羅巴諸國トノ關係ノ密接ナルヲ知ル即チ六割八分九厘六毛ニ達スルナリ。故ニ米國關稅改正ニヨリ最モ影響ヲ蒙ルベキハ歐羅巴諸國殊ニ英獨佛ノ三箇國ナリトス。然レドモ英國ハ自由貿易政策ヲ維持シ居ルヲ以テ英國品ニ對スル關稅ニツキテハ米國這回ノ改正上餘リ重要ナラザリシヲ以テ此ノ點ヨリ見ルトキハ殊ニ最高最低稅

率適用ノ難問ハ對獨佛ノ二箇國ニアリトス。次ニ米加貿易關係ヲ熟視セバ加奈陀品ノ米國ヘノ輸入ハ米國總輸入額ノ僅カニ六分四毛ナルモ有稅品ハ內五割八分ヲ占メ且米國品ノ加奈陀ヘノ輸出ハ九分八厘三毛ニシテ加奈陀總輸入額ノ六割ニ達スルヲ見レバ加奈陀ヨリノ輸入貨物ニ對シテ如何ナル稅率ヲ課スベキカハ米國ニ取リテ重要問題ノ一ナリトス。

我日本品ノ米國ヘノ輸入ハ七〇、三九二、七二二弗(無稅品五七、五一〇、二七八弗……八割二分有稅品二、八八二、四四四弗……一割八分)ニシテ米國總輸入額ノ僅カニ五分三厘七毛ナレバ日本品ノ稅率ヲ如何ニ定ムベキヤハ這回ノ關稅改正中微々タル問題ナリシナリ。羽二重絹織物花莖陶器類其他ニ對シテ其稅率一上一下多少ノ高低アリタルモ此種貨物ニ對スル輸出貿易ニ對シ新關稅ノ影響ナリト認ムベキモノ無キハ日本貿易ノ爲ニ喜バザルヲ得ズ。唯米國ニ於テ茶ニ對スル

税率ノ問題ハ我國ニ取り重要ナル問題ナルモ此ノコト無クシテ了リタルハ誠ニ賀スベキ一事ナリトスルニ躊躇セザルナリ。

次ニ獨逸、後蘭西、加奈陀トノ關係ヲ詳說セン

(其一) 米獨ノ關係

ペイン關稅法通過後幾何モ無クシテ米獨關稅ノ商議ハ兩國政府間ニ開始サレタリ。之レ兩國互惠條約ハ一九一〇年二月七日終了スベキヲ以テ其改締ヲ見ズンバ當然米國貨物が獨逸國ニ於テ一般稅率ヲ課セラル、ヲ以テナリ。獨逸ハ(一)獨逸貨物ニ對シテ最低稅率ヲ適用スベキコト(二)一九〇七年互惠條約ニ認メタル關稅評價ノ原則ヲ繼續スベキコトヲ主張シタルニ、米國ハ(一)獨逸最低稅率ヲ米國全貨物ニ對シテ適用スベキコト(二)米國ノ肉類(殊ニ豚肉)及家畜ニ關スル最モ嚴重ナル檢査及規定ハ殆ンド禁止的ナルヲ以テ此ノ如キ現行制度ヲ撤廢スベキコト(三)「ポタシ」ニ對スル輸出稅ヲ課セザルコト等

ヲ主張セリ。之ニ對シテ獨逸政府ハ米國ノ貨物ニ對シテ最低稅率ヲ課スルハ異議無キモ米國ノ肉類竝ニ家畜ニ關スル現行ノ禁制ヲ廢止スルハ農業黨ノ反抗非常ニ大ナルヲ以テ到底之ニ應ズルコト能ハザル旨ヲ言明セリ。即チ米國ノ要求シタル一部ハ容レラレタルモ米國委員ハ之ヲ以テ満足セズ更ニ交渉ヲ重ネタル結果一九一〇年二月三日ニ至リ兩國政府ハ家畜竝ニ食料品問題ハ之ヲ他日ニ讓ル事トナシ米國ノ豚肉ニ關スル規定ヲ寬大ニスベキ事ヲ約シ「ポタシ」問題ハ之ヲ不問ニ附シ(註)米國政府ハ獨逸ヨリ輸入スベキ貨物ニ對シテ不利益ナル取扱ヲナサル關稅行政法ヲ適用スベキコトヲ保證セリ。之レニヨリテ同日大統領タフト氏ハ獨逸(殖民地ヲ除ク)ニ對シテ最低稅率ヲ許可セリ。同月五日獨逸帝國議會ハ同ジク米國品ニ對シテ最低稅率ヲ認メ且豚肉ニ關スル規定ヲ寬大ニセリ。茲ニ於テカ兩國ノ關稅問題ハ圓滿ナル解決ヲ見ルニ至レリ

ウイリス教授ハ以上米獨ノ關稅協議ノ結果ニ
ツキ述ベテ曰ク、

米獨關稅協議ノ結果米國ノ受クル一大利益
ハ獨逸最低稅率ノ全體ノ適用之レナリ。米國
ハ一九〇七年ノ互惠條約ニヨリ一九一〇年二
月七日迄ハ其輸出價格ノ九割七分ノミ獨逸ノ
最低稅率ヲ受ケ其餘ハ最高稅率ノ適用ヲ受ケ
タリ。然レドモ此ノ最高稅率ヲ受ケタル貨物
ハ主トシテ米國ニテ生産スルコト能ハザルモ
ノ若クハ獨逸市場ニ於テハ將來望ミ難キモノ
ナルヲ以テ米國輸出品ニ對スル完全ナル獨逸
最低稅率ノ適用ハ現今ニ於テ重要ナラザルノ
ミナラズ。將來ニ於テモ亦然ラン。故ニ其價
値如何ニ就テハ未ダ知ルベカラザルモ此等米
國特殊貨物ノ貿易ニ於テ成功シ得ルヤ否ヤノ
程度ニヨルベシ。獨逸關稅率ハ米國ニ比シテ
高カラズ絶對的ニモ餘々高率ナラザルヲ以テ
最高最低稅率問題ハ獨逸市場ニ於ケル米國輸

出品ニ對シテ重大ナル關係ヲ及ボスモノトハ
思ハレズ。要之ニ以上協約ノ結果ハ米國ノ輸
出業者及輸出品ニ對シテ尠少ノ利益ヲ與フル
ノミナルモ之ニ反シテ獨逸品ノ米國消費者ニ
取リテ重大ナル損害ヲ與フルモノナリ。何ト
ナレバ米國ガ獨逸政府ニ與ヘタル保證アルニ
拘ラズペイン關稅法ニヨリ關稅價格標準決定
方法ガ評價額ヲ高カラシムル結果ヲ來スヲ以
テナリ。換言スレバ消費者ニ取リテ其價格ダ
ケ物價ノ騰貴ヲ來スヲ以テナリ。ト蓋シ至言
ト云ツベシ。

(註)最近「ボタシ」問題ニ就テ端ナクモ再び兩國間ノ關稅戰
爭論ヲ惹起セルモ猶之ヲ解決スルコトヲ得ズ。今其梗概ヲ述
ベントス。

「ボタシ」鹽(鹽化「ボタシ」硫化「ボタシ」ガ含有シ其下等品
ハ之ヲ肥料ニ用井上等品ハ火藥及其他ノ化學品ニ使用スルモ
ノ)ハ主トシテ獨逸ニ在リテ現今七十一箇所ノ鑛山ニテ生産
セラレ其多クハ之ヲ輸出スルモノナリ。米國ハ獨逸生産額ノ
三割ヲ使用シ略獨逸輸出額ノ六割ヲ占ムルナリ。獨逸ノ「Kali-

Switzerland 過去二十五年間各市場ニ於ケル「ボタシ」鹽ノ生産
及其價格ヲ支配シ居レリ。一九〇九年六月三十日新シンジケ
ートヲ見ルニ至レリ。恰モヨシ此ノ際米國農業化學會社ハ各
礦主ト商議シ舊シンジケートノ價格ヨリ三割安シテ七箇年
ヲ繼續スベキ契約ヲ結ビシニ九月ニ至リ他ノ米國製造業者モ
亦同様ノ締結ヲナセリ。新シンジケートノ成立ヲ見ルヤ間モ
無ク「ボタシ」ニ輸出税ノ議論起リ此等ノ契約ノ利益ハ之レニ
ヨリテ無効タラントス、茲ニ於テ米國利害關係者ハ獨政府ト
至大ノ關係ヲ有スル該シンジケートト幾多ノ商議ヲ遂ゲタル
モ失敗ニ歸セリ。恰モ此ノ際ハ米獨關稅ノ商議中ニシテ若シ
「ボタシ」ニ輸出税ヲ課スルナランニハ米國ノ最高稅率ヲ適用
スベキナ主張セルモ比較的小問題ナリシヲ以テ當時ハ全ク度
外視サレ商議ノ結果ハ相互ニ最低稅率ヲ適用スルニ至リタル
ハ上述セル所ナルガ其後一九一〇年五月獨逸政府ハ「ボタシ」
法ナルモノヲ通過セリ。該法ニヨレバ「ボタシ」礦山ニ分當サ
レタル產額ヲ超過セバ其生産ニ對シテ罰金稅ヲ課スルニアリ
即チ其賦課稅ハ鹽化「ボタシ」ニ對シ一噸ニ付四拾四圓トセリ
然ルニ米國製造業者ノ各礦主トノ契約價格ハ一噸ニ付參拾圓
ナリ。茲ニ於テカ米國々務卿ハ本法ニ對シテ抗議ヲナシタル
ニ獨逸政府ハ之レニヨリテ米國契約者ニ不利益ヲ蒙ラシムル
コトナカラントナ保證セシト雖モ米國ハ同法實施後直チニ

其稅額ヲ負擔セザルベカラザルコト、ナリヌ。其故國務卿ハ
商事官ダビス氏ヲ派遣シテシンジケート並ニ獨逸政府ト商議
ヲナサシメタルモ其談判ハ全ク失敗ニ終レリ。之ガ爲米國「ボ
タシ」消費者ハ非常ナル不利益ヲ蒙ルニ至リシヲ以テ米國肥
料製造家ハ大統領ニ獨逸ヨリ輸入スベキ貨物ニ最高稅率ヲ課
スベキコトヲ要請セリ。若シ米國ガ其最高稅率ヲ課センニハ
獨逸商業ハ爲ニ少カラザル不利益ヲ蒙ラザルベカラザルハ論
無シト雖モ米國モ亦一大打擊ヲ蒙ルベキナリ。之レベイン
關稅法ノ銳鋒タル最高最低稅率ノ效果ノ薄弱ナルヲ證スル一
事例タルニ過ギズ。(未完)

西洋新著論文梗概

商學士 坂西 由藏

アッシュレー「物價ノ騰貴」(其二)

第二節 物價騰貴ノ原因

(一)前節ニ舉ゲタヤウナ物價ノ著シキ騰貴ハ何
ニ因ルノデアルカ。諸國ノ統計ヲ比較シテ考ヘ
テ見レバ、物價ノ騰貴ガ決シテ箇々ノ國ニノミ